

川口地域交流拠点施設整備基本構想

令和 6 年 3 月

長 岡 市

川口地域交流拠点施設整備基本構想

目 次

1. 構想策定の背景及び目的	1
2. 関連計画における本構想の位置づけ	2
3. 川口地域の概要	4
4. 川口地域交流拠点施設の整備の方向性	5
5. 川口地域交流拠点施設整備に検討が必要な設備等	8
6. 川口地域交流拠点施設の管理運営について	8
7. その他	8
参考1 川口地域のまちづくりにおける公共施設のあり方の検討	9
参考2 川口地域交流拠点施設に必要な機能の検討	10

1. 構想策定の背景及び目的

川口地域は過疎地域※¹であり、人口減少とともに高齢化が進んでおり、地域活力の低下が懸念されます。また、市民活動の拠点である川口コミュニティセンターの周辺では川口支所や文化会館等の公共施設の耐震性が不足し、老朽化も進んでおり、対策が求められています。

そのため、全ての支所地域が目指す地域像である「コミュニティ推進組織と支所が一体となって、関係団体等と連携・協働して地域活力の向上を促進する地域」の実現に向け、川口地域のまちづくりにおける公共施設のあり方の検討（参考1）を踏まえた地域拠点の整備が必要と考えます。

そこで、コミュニティ機能と支所機能を集約した「川口地域交流拠点施設」を整備し、住民の交流・活動の拡大、地域活力の向上を目指すことを目的に、本構想を策定します。

なお、本構想の対象とする施設は、「川口コミュニティセンター」と「川口文化会館」、「川口支所」、「子育ての駅かわぐち」です。

※1 地域の人口減少や高齢化が進んだ状態の地域で、持続的発展の支援に関する特別措置法に要件等が定められています。川口地域は過疎地域に指定されている市内6地域の一つです。

<参考> 本構想の対象とする施設



<川口コミュニティセンター>



<川口文化会館>



<川口支所>



<子育ての駅かわぐち>



2. 関連計画における本構想の位置づけ

(1) 長岡市総合計画

〔政策の方向性〕

協働によるまちづくり

市民力と地域力を生かして、新たな価値や活力を生み出すまちづくりを目指します。

暮らしの安心と活力

市民の誰もが、健やかで元気に、安全で安心に暮らせて、活力が持てる地域社会づくりを目指します。

魅力創造・発信

地域資源の掘り起こしや磨き上げを行うとともに、国内外に向けた魅力の発信や交流の促進により、「長岡ファン」の拡大を目指します。

〔川口地域交流拠点施設の整備に向けて〕

- 川口支所を含めた周辺の公共施設機能を集約し、川口コミュニティセンターと一体的に地域交流拠点施設を整備することで、コミュニティ推進組織、支所、地域団体等が協働して地域の課題解決や活性化を促進し、住民の生活を支援します。
- 地域内外の多様な世代が集い、人の輪が広がる場となる拠点を整備します。
- 地域住民が多様に活動・交流し、川口地域に新たな活力を生み出していく市民活動と学びの場となる拠点を整備します。
- 川口地域の豊かな歴史・文化等に身近にふれあいながら、地域の魅力を感じ、次世代に伝える場となる拠点を整備します。

(2) 長岡市立地適正化計画

川口地域の中心部には、川口支所、川口コミュニティセンター、川口文化会館、金融機関、近隣型商業施設等の都市機能が集積しており、地域拠点として位置づけられています。また、川口支所を中心として「都市機能誘導区域」^{※2}が設定されています。

川口地域の都市機能誘導区域に維持する施設として川口支所、川口コミュニティセンター、川口文化会館等、誘導する施設として子育ての駅かわぐちが設定されています。

※2 「都市機能誘導区域」とは、医療、社会福祉、商業等の都市機能を維持、誘導することにより、効率的なサービス提供を図る区域であり、かつ、その区域にこれらの誘導施設を設定するものとされています。

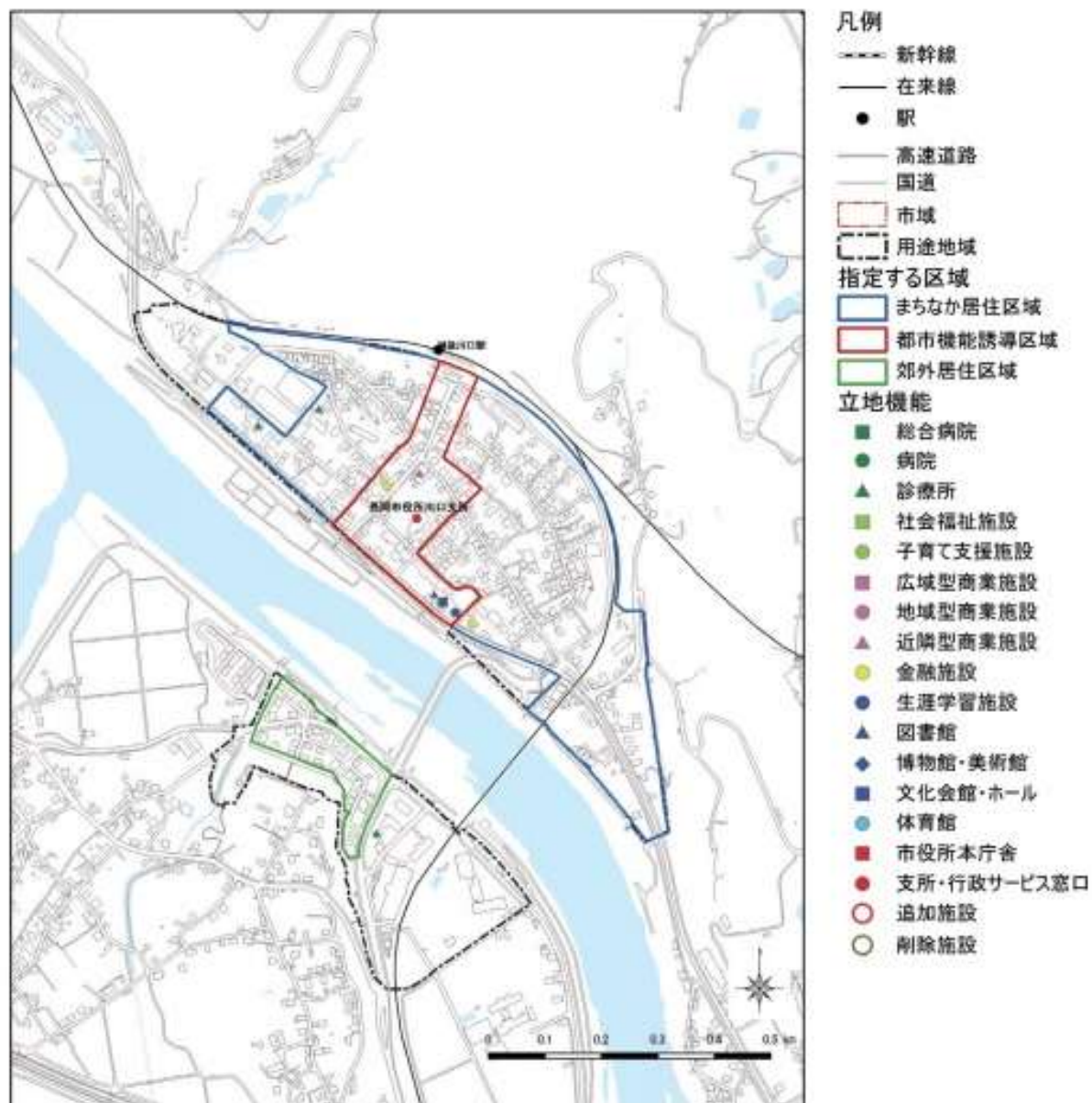
〔川口地域交流拠点施設の整備に向けて〕

都市機能誘導区域である現川口文化会館等敷地に川口支所、川口文化会館、子育ての駅かわぐち等の機能を集約した拠点施設を川口コミュニティセンターと一体的に整備し、効率的なサービスを提供します。

< 参考 >

長岡市立地適正化計画における都市機能誘導区域とまちなか居住区域（川口地域）

■川口地域



(3) 長岡市公共施設等総合管理計画

〔施設の量の適正化と適正配置の手法〕

公共建築物の複合化・集約化

今後、全ての公共施設等について更新を行うと、相当規模の費用の増大が見込まれます。このことに対処するためには、施設の更新費を抑える必要があるほか、施設の適正配置を図っていくうえでも、施設の総量のある程度抑制していく必要があります。また、複数の施設を集約し、複合施設として機能を集約すれば、1か所でさまざまなサービスを受けることができ、市民の利便性は高まります。

未利用地・未利用施設の有効活用

まちづくりの拠点となる地区における未利用地や施設跡地は、施設の量の適正化・適正配置を進めるための貴重な種地であり、有効活用を図ります。

〔川口地域交流拠点施設の整備に向けて〕

老朽化した川口支所と川口文化会館、子育ての駅かわぐちの機能を集約し、川口コミュニティセンターと一体的に拠点施設として整備することにより、建物の総面積を削減するとともに、コミュニティ機能や行政機能、さらに情報発信などの機能を効率化し、利便性と川口地域の新しい「顔」としての拠点性を高めます。また、集約により不要となる川口支所は解体し、跡地は各種イベント・行事などに幅広く活用できる多目的広場として整備します。

3. 川口地域の概要

(1) 地域の現状

川口地域は、大河「信濃川」と清流「魚野川」の合流地点にあり、二大河川が形成する河岸段丘に拓けた水と緑豊かな地域です。この周辺には旧石器時代からの遺跡が点在しており、古くから舟運による妻有郷（十日町市）、上田郷（南魚沼市）への物資運搬の基点として、また、三国街道の越後十四宿場の一つとして、参勤交代道中の大名の宿場所として集落を成し交通の要衝として栄えてきました。旧宿場周辺には、市街地が広がりをみせ、山あいの傾斜地や幹線道路沿いにも、集落が点在しています。地域中央部には多くの公営住宅が供給されています。

現在は、JR 上越線と JR 飯山線の結節点に位置し、幹線道路の国道 17 号が川口地域中心部を、国道 117 号が西端を通り、関越自動車道には越後川口インターチェンジ（S・A 併設）を有し、首都圏まで約 3 時間余りと、恵まれた交通条件下にあります。

中心部の河岸段丘を望む丘陵地には、スポーツレクリエーション施設や宿泊施設、温泉施設などがある「川口総合交流拠点施設」や「川口運動公園」、そして日本古来の伝統的河川漁法で知られる川口やな場もあり、地域全体で、年間約 30 万人の利用者が訪れています。

(2) 人口

地域の人口は、2023 年で 3,914 人（令和 5 年 4 月 1 日現在）。過去 10 年間（2014 年～2023 年）で 19.7%の減少があり、今後も同様の傾向が続く見通しです。

JR 越後川口駅周辺（東川口地区）の市街地や西川口地区のまちなか居住区域内に人口が集積しています。

高齢化率（65 歳以上人口割合）は、2023 年で 42.1%です。

(3) 主な地域資源、地域の宝

「ふるさとの森」や「魚野川と信濃川の河川空間」、「天神ばやし」などの地域の宝があります。観光・交流資源として、「魚野川のやな場」や「川口運動公園」、「川口温泉」、

道の駅「越後川口あぐりの里」、「魚野川水辺プラザ」などがあります。

山菜、キノコ、アユ、錦鯉などの地域資源があります。さらに、都市と農村の交流を深めていくため、特色ある地域資源を活かした農山村滞在型・体験型交流事業（グリーン・ツーリズム）にも取り組んでいます。

4. 川口地域交流拠点施設の整備の方向性

川口地域の住民による、より一層の交流の場、活動の場として、川口地域交流拠点施設を整備します。また、コミュニティ推進組織、支所、地域団体等が連携して地域課題解決・活性化等を促進するとともに、住民の生活を支援するため、支所機能と一体的に整備します。

(1) 計画予定地

川口地域交流拠点施設の計画予定地は、次のとおりです。

① 計画予定地概要

所在地	長岡市東川口字前島 1979 番地 128 他
敷地面積	約 5,700 m ²
用途地域	準住居地域（建ぺい率 60%、容積率 200%）

② 計画予定地案内図



(2) 計画予定地選定の理由等

<選定の理由>

- ・昔からの川口地域の中心部
- ・長岡市立地適正化計画における都市機能誘導区域
- ・JR 越後川口駅や、国道 17 号、近隣商業地域に近接する利便性の高さ
- ・川口地域内唯一の人口密集地（唯一の国庫補助対象エリア）
- ・集約すべき公共施設が近接し、改修する川口コミュニティセンターと一体的かつ効

果的に整備が可能

＜当地に交流拠点施設を建設することの効果＞

- ・市民活動の活性化・施設利用者の増加・市民活動参加者の増加
- ・周辺地域の活性化、関係人口・交流人口の増加

＜防災上のリスク等＞

- ・洪水ハザードマップ上の浸水深 5～10m（想定最大規模雨量）、氾濫流区域
- ・地区の 3 方向を土砂災害警戒区域（イエローゾーン）が囲む
- ・地区を縦断する国道 17 号は、連続雨量 180mm で通行止め（東川口～牛ヶ島）
- ・信濃川及び、魚野川両方の洪水リスクを抱える唯一の地域
- ・地区内を縦断する大平沢川による内水害（H29.7 床上浸水被害発生）について、県に対して改修工事を要望中

（3）川口地域交流拠点施設のコンセプト

新たに整備する川口地域交流拠点施設が、地域住民の交流と活動を誘発し、地域の活性化を促進する場となるよう「協働によるまちづくり拠点」・「多世代が関わるコミュニティの場」・「市民活動と学びの場」・「地域の魅力発信拠点」・「地域の防災拠点」・「新たな賑わい創出の拠点」をテーマに、6 つのコンセプトを設定し、整備を進めます。

【テーマ】

- 協働によるまちづくり拠点
- 多世代が関わるコミュニティの場
- 市民活動と学びの場
- 地域の魅力発信拠点
- 地域の防災拠点
- 新たな賑わい創出の拠点

【コンセプト】

- ①コミュニティ推進組織と支所が一体となって、関係団体等と連携・協働して地域活力の向上を促進する拠点
- ②子どもから高齢者まで、地域内外の幅広い世代が集い、ここからコミュニティの輪が広がる拠点
- ③住民が自主的かつ主体的に交流・活動・学習し、いきいきとした充実感を得られる拠点
- ④地域の豊かな歴史・文化の魅力を感じ、次世代に伝える情報発信拠点
- ⑤住み慣れた地域で暮らし続けられる、安全・安心の防災拠点※3
- ⑥駅前から川口地域交流拠点施設周辺地域の新たな賑わい、人の流れを創出する拠点

※3 「参考 2 川口地域交流拠点施設に必要な機能の検討」の「地域の防災拠点」参照

(4) 川口地域交流拠点施設の規模

川口地域交流拠点施設（新築部分）の延床面積は、1,350 m²程度※4を想定します。

また、隣接する川口コミュニティセンター改修と併せて一体的かつ効率的な整備を図ります。

(5) 川口地域交流拠点施設の具体的スペースのイメージ※4

（既存コミュニティセンター改修部分含む）

具体的スペース	想定する利用方法等
ホール・研修室・学習室・活動ルーム・和室	講演会や発表会などの文化イベントや作品展示・歴史的資料・絵画の展示のほか、様々な世代・団体・業種の方々などの交流や活動の場としての利用を想定 【既存のコミュニティセンターと同様の用途】
調理実習室	小さな子どもからお年寄りまで、気軽に調理し、食事を楽しみながら交流する場としての利用を想定 【既存のコミュニティセンターと同様の用途】
倉庫	防災備品や歴史資料を保管する場としての利用を想定
歴史・文化資料の展示、学習、地域の魅力発信コーナー	川口の歴史や文化に関する展示や、川口らしい蔵書を有する図書スペースを新たに確保し、川口地域の魅力を伝える場としての利用を想定（常設スペースとしてや、施設利用者の動線上に分散して展示すること等を想定）
窓口スペース	福祉や生活などの相談や手続き、観光や産業のPR、施設の利用案内やガイド申し込みなどができる場
談話・ミーティングルーム、自習スペース	地域内外問わず住民等が自主的かつ主体的に交流・活動・生涯学習等を行う場としての利用を想定
子育て支援センター（子育ての駅）	保育士や子育てコンシェルジュがいる子育て支援施設として、単なる遊び場だけではなく、保育・交流・相談・情報提供機能を有した施設としての利用を想定 ※災害時は「子育てあんしんの避難所」としての利用を想定
ピロティ、屋根付きオープンスペース等	頻度の高い浸水被害を低減するため高床式構造等を想定し、平常時はコミュニティバスのバス停、全天候型で様々なイベントを開催する場、地域住民の憩いの場、地域住民の自由な発想で活動できる場としての利用を想定
スタッフルーム	交流、コミュニティ施設の管理・運営や地域住民等の活動支援を行うスタッフルーム
行政等事務スペース	事務室、会議室、書庫・倉庫、休憩室などを想定
【外構】 駐車場・駐輪場	平常時の施設利用者及びイベント・行事等への参加者の駐車場・駐輪場としての利用を想定
渡り通路	改修する既存コミュニティセンターと新築部分を屋内で行き来できる接続通路の設置を想定

※4 「参考2 川口地域交流拠点施設に必要な機能の検討」の結果を踏まえたイメージです。

(6) 川口地域コミュニティ拠点施設の整備スケジュール

令和 6 年度	現況測量・境界確定測量、基本設計
令和 7 年度	地質調査、実施設計、外構設計、川口文化会館・東川口保育園解体工事
令和 8・9 年度	建設工事、外構工事、川口コミュニティセンター改修工事 消防器具置場解体工事
令和 9 年度	供用開始

5. 川口地域交流拠点施設整備に検討が必要な設備等

①施設全体の安全性や利便性、バリアフリー性能や省エネルギー性能を適切に確保するとともに、雪処理費用を含む維持管理コストの低減に十分に配慮して、施設整備の詳細について検討する必要があります。

また、コンセプトとして設定したまちづくり・防災の拠点として整備するため、高床式構造など洪水による浸水及び土砂災害に対し安全性を高めた施設にするとともに、川口コミュニティセンターの建物を改修（玄関部分の止水板設置、交流ホールの天井の耐震化等）して、地域交流拠点施設として一体的に検討する必要があります。

②従来の使用用途に加えて、新たにワークショップ、コワーキングスペース等、多面的な使用に柔軟に対応できることを念頭に、Wi-Fi 環境など各諸室の設備を検討する必要があります。

③川口地域のまちなみと調和した施設となるよう、「長岡市景観アクションプラン」（平成 28 年 3 月策定）との整合を図る等、設計の中でデザイン及び外構を検討する必要があります。

6. 川口地域交流拠点施設の管理運営について

地域住民の視点に立った自由度の高い運営・管理体制と安全・安心な施設管理について検討する必要があります。

7. その他

①国の都市構造再編集中支援事業補助金等の活用を検討し、市の負担が最小限となるよう検討する必要があります。

②民間事業者のノウハウを活用することにより、建設コストの低減や工事期間の短縮等が期待できる発注方式を検討する必要があります。

参考 1 川口地域のまちづくりにおける公共施設のあり方の検討 (平成 29 年度～平成 30 年度)

人口減少や少子高齢化など地域の状況が大きく変化する中、地域の課題も多様化しています。

川口地域委員会の分科会において、「川口地域のまちづくりにおける公共施設のあり方」、「東川口のまちづくりの課題と公共施設のあり方」についてをテーマに自由に意見を出し合い、課題を解決するために必要なことを検討しました。

○東川口地区の課題等

- ・近年のゲリラ豪雨等により、大平沢川があふれることで、東川口の広範囲が冠水する。ゲリラ豪雨の場合、対処する時間が限られるため、大平沢川対策は最重要案件である。
- ・支所周辺の公共建物は公民館を除き老朽化が進んでおり、旧耐震基準の建物も多くあるため、その対応が必要である。
- ・支所は災害発生時に防災拠点となるので、災害に強い建物である必要がある。
- ・東川口地区には、多くの住民が一時的に避難できる場所（公園等）がないため、整備を検討する必要がある。
- ・東川口保育園が西川口に移転する予定であるが、現保育園は老朽化しているため、移転後他施設への転用は現実的ではない。
- ・コミュニティセンターが平成32年度の開設を目指して準備されている。当面、公民館等の既存施設を活用して始めることと思うが、川口地域コミュニティ検討委員会の目標としている活動を行うためには、既存施設の組み合わせだけでは不十分と考えられる。
- ・人口が減っているため、支所などの既存施設を建替える場合でも、同等の面積・機能までは必要なく、多目的に使用できる複合型施設が効率的である。

○公共施設再編等のイメージ

- ・川口公民館などの既存施設をコミュニティセンターとして活用することが予定されているが、既存施設だけの組合せではコミュニティセンターとしての機能が十分果たされないことが懸念される。
- ・東川口保育園移転後の敷地を活用し、現在の川口公民館（コミュニティセンター）に隣接する形で、コミュニティセンターに不足する機能や文化会館に入っている機能、支所機能などを複合した、コンパクトな施設の整備を検討する必要がある。
- ・東川口保育園移転後の敷地内に、複合施設を整備することにより、地元住民の意向を受けた現支所の跡地の有効活用を図ることが可能と考えられる。

参考２ 川口地域交流拠点施設に必要な機能の検討（令和４年度）

「参考１」の内容を踏まえ、川口地域多世代交流のまちづくり懇談会等で、川口地域交流拠点施設に必要な機能等の検討を行いました。

（懇談会委員…川口地域の総代会、地域委員会、コミュニティ推進協議会、商工会、市民活動団体等から選出された計９名）

川口地域交流拠点施設 機能・特徴イメージ（案）

○協働によるまちづくりの拠点

支所とコミセンの執務スペース

○多世代が関わるコミュニティの場

子育て支援スペース（例えば 子育てルーム、絵本・児童書コーナー、ベビーカー置場、自然体験スペース等）

○市民活動と学びの場

生涯学習スペース（例えば 自習スペース、談話ルーム、ミーティングルーム、調理スペース、オープンスペース等）

○地域の魅力発信

歴史、文化、地域の宝他、情報発信スペース

○地域の防災拠点

発災時に現地対策本部、高床構造、避難所

○賑わい創出

ピロティ活用（例えば キッチンカー）、支所庁舎跡地（例えば 広場、遊水地機能）、駅前からの人の流れ創出工夫